



Biz茶

CHA

~茶の湯から学ぶ仕事のヒント~

07

余白が 意思決定を変える



一般社団法人 茶道裏千家淡交会理事
株式会社淡交社 代表取締役社長

伊住 宗陽

生成AIの進化により、ビジネスにおける意思決定の環境は大きく変わりつつあります。情報の収集や分析は、これまで以上に高速かつ精緻になりました。その一方で、最後に「決める」のは人間です。そのとき問われるのは、何を知っているかではなく、何を選び取るかではないでしょうか。茶室に入ると、まず感じるのは「少なさ」です。掛物、花、釜、そして一碗の茶。そこには、必要なものだけが静かに置かれています。

茶の湯は、もてなしの文化であると同時に、選択の文化でもあります。何を置くか以上に、何を置かないか。その積み重ねによって、場の意味がかたちづくれます。現代の経営においても同じこと



が言えます。情報を増やすことは容易ですが、削ぐことは難しい。しかし、本質的な意思決定は、どこまで削ぎ落とせるかによって、その質が大きく変わります。茶道の所作や道具もまた、この感覚を養うためのものです。一つひとつの動きの中で、自らの判断の癖や無意識の選択が浮かび上がる。その積み重ねが、数字や言葉には表れない「違和感」に気づく力を育てていきます。

情報があふれる時代において必要なのは、情報の量ではありません。どこまで削ぎ落とし、何を残すかという「選択の感覚」です。茶道とは、心を整えるだけでなく、自らの判断の軸と静かに向き合う時間を、私たちに取り戻してくれれます。